



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



危機を乗り越える柔軟性

歯学部長 榎 宏太郎

新年 明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染拡大の中で2021年を迎えましたが、感染への緊張が続く中、今までとは全く異なる年明けです。今年、社会はどのように変化するのでしょうか？参考までに、新エネルギー・産業技術総合開発機構 技術戦略研究センター(NEDO TSC)が、2020年6月に発表した三つのシナリオを紹介します。



一つ目は、①新たな集団感染事例が減少し、2021年冬にはワクチンによる改善が得られ、コロナ禍以前と同様の経済活動にV字回復、仕事・学校への影響は限定的に止どまる。しかし、DX進行は従来よりも早まり、社会変化は避けられない。

二つ目は、②集団感染事例の発生が2~3年程度続き、薬やワクチンの開発とともに集団免疫の獲得も2~3年後となる。コロナ禍以前の経済活動の再開はおよそ5年後になる。グローバル化は後退し、仕事や教育への影響も大きくなる。DXの進行速度は早まるが、経済の低迷を伴う社会変化が急激に起こる。

三つ目は、③集団感染が世界各地で継続し、ウイルスが強毒化して、集団免疫獲得にも失敗する。新しい経済活動方針の策定を迫られ、仕事・学校はオンライン化される。DXの導入は幅広い分野で進行するが、経済の低迷から政治体制も変容する。

とされています。①であることを願いますが、②の可能性が高いようにも思います。③は勘弁して欲しいです。しかし、いずれのシナリオでも起きるであろうと記されているのが、DXの進行です。DXとは、すでにご存知の方も多いと思われそうですが、デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation)の略で、直訳すると“デジタル変化”となります。単にアナログであったものがデジタル化されるというだけでは無く、デジタルライゼーションの結果として組織や社会に変革を生み出すことを意味します。そして、その調査結果から考えられる未来像として述べられている「医療サービ

スのイノベーション像」の項には、①モニタリング、②モデリング・予測、③制御・誘導、に分けられ、センシング技術、バイオマーカー技術、シミュレーション、病気を未然に防ぐ方法の開発、遠隔診断、などの具体例が挙げられています。その上で、様々な技術を今までにない分野へ応用するための柔軟な発想が推奨されています。しかし、その一方では、人と人のコミュニケーションや対面というアナログの価値が相対的に高くなるという予測や感動を与えにくいというデジタルの欠点も述べられ、教育や臨床の現場を考えると大変興味深いところです。

さらに、2020年11月の日本経済新聞では、医療データの活用に関して、世界有数の良質なデータである我が国の医療レセプト情報を応用する必要性が挙げられており、その実現のためには、利用者や事業者も交えるべきであると述べられています。未来の医療を考える上では、出来るだけ広く知恵(情報)を求めることが重要であると気づかせてくれます。我々、歯学部もこのような予測や解析結果を参考として、ポストコロナの時代における歯科医療や歯科医学のあるべき姿を常に考え続ける必要があります。今年は、このような予断を許さない時代であるからこそ、将来に関する話題を皆さんと共に話し合う機会を設け、様々な対応を可能にするよう、今まで以上にフレキシブルな体制を構築したいと考えます。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 2月4日(木): 一般選抜入試(I期)
大学入試共通テスト利用入試(A方式)
- 2月6日(土): 2021年春季Ⅱ期
大学院歯学研究科入学試験
- 2月13日(土), 14日(日):
医学部一般選抜入試(I期)利用の
歯学部併願入試(2次試験)
- 2月28日(日): 大学入試共通テスト利用入試
(B方式: 地域別選抜)2次試験
- 3月7日(日): 一般選抜入試(Ⅱ期)
- 3月14日(日): OSCE
- 3月16日(火): 卒業式・学位記伝達式
- 3月23日(火): 大学院春季修了式
- 3月29日(月): D4オリエンテーション
- 3月31日(水): D2オリエンテーション



大学入学共通テストが実施されました

入試常任委員 山本 松男

1月16日、17日の週末2日にわたって独立行政法人大学入試センターが実施する大学入学共通テスト(以下、「共通テスト」)が実施され、全国で53万5千人が受験をしました。情報化社会への進展や急速なグローバル化といった大きな社会の変化に対応する能力として、これまでの「知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」が必要で、知識を前提にそれを活用する「思考力・判断力・表現力」を一層重視した評価をするために、センター試験が共通テストに移行しました。本学では、11年前から共立女子大学と共同で実施しています。共立女子大学の会場で受験をした受験生が必ずしも本学を受験するとは限りませんが、歯学部では共通テスト利用入試 A 方式10名(英数理または英国理3科目+面接)、B 方式6名(英数理2科国社+小論文+面接、全国6ブロック制)を実施しているために、共立女子大学と共同の形で共通テストの運営に携わっています。今回は、コロナ感染症拡大の第三波の真っ只中でしたので、別室受験の準備など用意周到に準備を進めました。教職員の皆様におかれましては、日頃の学生教育や診療に加えて、試験当日は朝早くからご協力をいただき誠にありがとうございました。



CBT が実施されました

CBT 実施責任者 鈴木 規元

1月27日(水)に令和2年度共用試験 CBT が実施されました。新型コロナウイルスが猛威を振るう中、受験生の体調が心配されましたが、4年生105名のうち、1名が欠席となり、104名が受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前8時40分に集合、榎歯学部長と飯島教育委員長らの激励を受けたのち、午後5時過ぎまで全320問の問題に取り組みました。学生は終始緊張の面持ちでしたが、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。共用試験実施評価機構からは、日本大学松戸歯学部の清水武彦教授がモニター委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、学生の受験態度や実施状況など大変良好とのコメントをいただきました。あとは学生の好成績を祈るばかりです。

試験監督をはじめ、CBT 実施にあたりご協力いただいた先生方・学務課の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

海外選択実習の今後の展開

国際交流担当 桑田 啓貴

2020年度は、コロナの影響で昭和大学の国際交流活動は全て休止されました。例年ですと4月に D6 の海外選択実習が始まり、UCLA サマースクール(D3)、ポートランド州立大学(PSU) 春季プログラム(D2~4)、マダガスカル口唇口蓋裂医療協力(D5)など各学年ごとに様々な海外派遣イベントが実施される予定でした。加えて、学生による研究発表イベントとして、日本歯科医師会主催によるスチューデントクリンシャンリサーチプログラム(SCRP)やアジア太平洋歯科学会(APDSA)による研究発表会も中止されました。

これまで昭和大学歯学部では、国際的視野を持った医療人の育成を目標に国際交流活動を強く推進してきました。いまだ世界的パンデミックの先行きは不透明ですが、歯学部国際交流委員会では再開に向けて準備を進めているところです。直近の国際交流イベントとしては、PSU 春季プログラムをオンライン開催する予定です。実施期間は3月15日(月)から19日(金)まで、時間は9~14時頃(日本時間)となっています(D2~4対象)。また、同時期に、現在米国テキサス州で開業されている成田まき先生(昭和大同窓生、米国歯周病専門医)によるオンライン講義も予定しています(詳細については今後アナウンス予定)。ご参加のほど、よろしくお願いいたします。

学生の研究発表会では、自身で得た研究成果を英語で発表します。学生はまず研究入門実習(毎年D2~3春季の各研究室配属)に参加した上で、各教室の先生の指導によりプレゼンテーションの練習を行い、希望者より選抜を経て、SCRP・APDSA への参加が許可されます。当然、発表には十分な英語力が要求されますので、継続的な英語学習が必要となります。

国際交流センターでは、今後随時オンラインを中心とした各種イベントを実施します。詳細は、歯学部だよりや国際交流センターのホームページをご覧ください。歯学部の学生のみなさんの積極的な参加が期待されます。

編集後記

口腔解剖学講座 野中 直子

新型コロナウイルス感染拡大は、私たちの生活を大きく変えました。普通に生活していた頃が懐かしく、当たり前であったことが当たり前でなくなった今、この経験から多くのことを学びました。コロナ感染症の早い終息を祈り、皆さん頑張ってください。最後になりましたが、原稿執筆をいただきました先生方にお礼申し上げます。

